

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371501020
法人名	株式会社在宅介護センター愛
事業所名	グループハウス愛
訪問調査日	平成20年8月18日
評価確定日	平成20年9月29日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2371501020
法人名	株式会社在宅介護センター愛
事業所名	グループハウス愛
所在地	名古屋市名東区八前二丁目1820番地 (電話) 052-774-0187

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年8月18日	評価確定日	平成20年9月29日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年7月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	22 人 常勤 14人, 非常勤 8人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000~69,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (300,000 円) 有りの場合 無 償却の有無		(有) / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	72 歳	最高	98 歳
協力医療機関名	医療法人桂名会木村病院・松本内科・長久手歯科				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは商業地域に立地し瓦屋根と木の引き戸の門、大きな板に毛筆の表札、フロアの一角の和室や掘りごたつ、屋上には緑の芝生が貼られ、花や野菜もあり入居者のこれまでの生活様式を大切にしようとしている。ホームはどこも掃除が行き届いて衛生的である。また、各居室の扉は一室づつデザインされ、自筆の表札と共に個性を大事にし、間違えない配慮にも繋がっている。地域のボランティアによる歌や手品、押し花教室、近隣の造園業者からの蛍鑑賞の誘いなどもあり、散歩時の挨拶や地域清掃にも参加することで地域との良好な関係も構築されつつある。ホームは安全、安心で安楽な生活を目指して、職員は常に思いやりの気持ちを持ち、意欲的で前向きな姿勢で介護にあたっている。入居者は夏祭り、敬老会、もちつき等の大きなイベントのみならず、日常的にも散歩や喫茶、外食、誕生会など楽しみやホームに閉じこもらない生活が支援されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善点について、スタッフ会議や勉強会の中で話し合い、改善に取り組んだ。外部研修で同業者との情報交換や交流があるが、さらに交流を深め向上に結びつきたいと考えている。災害対策としては安全対策委員会を設け、備蓄品を2日くらい準備している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員で取り組み、施設長が取りまとめた。日常業務を見直す機会としても有意義と感じた。記述式であり設問も多く、忙しい日常業務の中で大変だった。類似した質問もあり工夫して欲しいと思っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、3カ月に1回、自治会役員、民生委員、地域の医師、家族の参加を得て開催している。ホームの状況報告や話し合いをし、サービス向上に役立てている。医師による認知症についての話など参考になることも多い。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 苦情、相談窓口である担当者(管理者及び行政)を重要事項説明書に明記し、契約時には説明をしている。各フロアには意見箱を置いて家族が気兼ねなく意見、不満、苦情を言えるよう配慮されている。家族会はないが、面会時には近況を報告している。職員の名前と顔が分かるよう写真を貼ったり、家族と良好な関係づくりをはかり、意見や要望を把握し、反映させようと努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、散歩時には挨拶をかわし、地域一斉清掃にも参加している。日常、ホーム近辺のゴミ拾いにも努めている。また、地域のボランティアの訪問や蛍鑑賞に招待されるなど、地域との良好な関係も構築されつつある。入居者は地域のスーパーや喫茶店などを利用することも多く、地域で受け入れられている。今後は地域に向けて「介護教室」などを企画していきたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安全・安心・安楽」をモットーに、職員全員で具体的に7項目の基本理念を話し合い策定している。その中では「地域住民に開かれたホームを目指し、地域の人とのつながり、ふれあいを大切にします」とし、地域密着型サービスとしての役割を反映したものとなっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はスタッフルームに掲示されている。入社時には理念を重点的に説明し、日々の申し送りや会議の中でも状況に応じ確認し、話がされている。職員は理念に沿った考え方で対応している。入居者が安心して安全で穏やかにその人らしく生活ができるよう生活を支援し、介護を行なっている。また、理念は介護計画の根本となっており、7項目の内容を大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、散歩時には挨拶をかわし、地域一斉清掃にも参加している。日常、ホーム近辺のゴミ拾いにも努めている。また、地域のボランティアの訪問や近隣の業者から賞状に招待されるなど、地域との良好な関係も構築されつつある。入居者は地域のスーパーや喫茶店、美容院などを利用することも多く、地域で受け入れられている。地域に馴染んだホームづくりに向けても「介護教室」などを企画していきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善点について、スタッフ会議や勉強会の中で話し合い、改善に取り組んだ。外部研修で同業者との情報交換や交流があるが、さらに交流を深め向上に結びつけたいと考えている。災害対策としては安全対策委員会を設け、備蓄品を2日くらい準備している。自己評価は職員全員で取り組み、施設長が取りまとめた。日常業務を見直す機会としても有意義と感じた。記述式であり設問も多く、忙しい日常業務の中で大変だった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、3カ月に1回、自治会役員、民生委員、地域の医師、家族の参加を得て開催している。ホームの状況報告や話し合いをし、サービス向上に役立っている。医師による認知症についての話など参考になることも多い。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>相談したいことについては、市の担当者に電話や訪問して聞いている。それにより課題解決へ向け協働し、信頼関係を築くことができた。名古屋市介護サービス事業者連絡研究会(名介研)のグループホーム分科会でも市担当者と情報交換や交流がある。さらに交流を深め、運営推進会議にも市担当者の参加を要請していきたいと考えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時や介護計画の説明時に入居者の近況や様子について説明し、日常の写真も見てもらっている。出納帳についても確認してもらっている。その他にも美容院や歯科医へ行く時など、料金なども含めて電話で連絡をとったり、適宜お知らせ文書を送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情、相談窓口である担当者(管理者及び行政)を重要事項説明書に明記し、契約時には説明をしている。各フロアには意見箱をおいて家族が気兼ねなく意見、不満、苦情を言えるよう配慮されている。家族会はないが、面会時には各家族に対して近況を報告している。全体共通事項に関しては随時家族に集まっていたり説明をしている。また、職員の名前と顔が分かるよう写真を貼ったり、家族と良好な関係づくりをはかり、意見や要望を把握し、反映させようと努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定期的な異動はあるが、職員は各ユニットを入居者と一緒にお互いに行き来するなど、平日頃からコミュニケーションを図るようにしており、異動などによるダメージは少ない。面会時には家族にもお知らせしている。家族ともコミュニケーションを深め、「馴染みの関係」を構築しようと考えている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には、理念、マニュアル、礼法などを研修している。職員のアンケートから、日頃から必要としていることの計画を立て、月1回勉強会をしている。最近では「ターミナルケア」について、また、理学療法士による「転倒防止」について勉強会を行った。名古屋市認知症実務者研修や名古屋市介護事業者研究会グループホーム分科会など外部研修にも積極的に参加している。今後も具体的に計画をたて、更にスキルアップを図りたいと考えている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市介護サービス事業者連絡研究会（名介研）のグループホーム分科会で管理者が幹事を務め、交流を深め促進したいと考えている。また、グループホーム同士でも電話などで情報交換している。他の介護サービス事業者とは研修会で交流する機会も持っている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談の後、ホームを見学してもらい、ホームの雰囲気に馴染ってもらうことから始め、自宅を訪問してコミュニケーションを深めるよう努めている。家族から生活歴や身体状況などの情報を確保し、信頼関係の構築に役立てている。入居後は声かけを密にし、徐々にホームでの生活に慣れていけるよう配慮している。職員間では各種の記録や情報を共有することで本人の理解に努め、本人の安心と納得を大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩として、本人の意見を聞き、一緒に学び、接することで生活体験を参考に信頼関係を築いている。食事の準備や後片付け、洗濯物の干しや取り込み、整理など一緒に行う中で料理、風習、慣わし、戦争体験等々多くを入居者より学ぶことも多い。疲れている時に優しい言葉や労いの言葉をかけてもらうことも多く、自然体で支えあっている。共に生活する中で本人ができることも引き出している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>常に入居者本人の思いを大切にして支援している。担当職員が入居者の状況を把握し、思いや意向を把握して、職員間でも情報を共有し入居者の思いや意向に添い、入居者の「今」を大切にしたい対応を心がけている。日常の個別の会話や入居者同士の会話から思いを把握もすることもある。家族に生活歴やできること、できないことを聞き、それを活かせるよう入居者の視点に立った対応を心がけている。把握困難な場合は家族の意見を参考に本人本位となるよう検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式のアセスメントに基づき、本人の思いや意向、家族の要望、月例会議での職員の意見を参考に計画作成担当者が介護計画を作成している。入居サービス計画書と日課表を作成し、家族にきちんと説明を行ない受領印を受けている。家族アンケートにも「説明を受け一緒に話し合っている」と全員から評価されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者ごとに担当職員が決まっており、月1回のカンファレンスで入居者の状態について話し合い、職員は情報の共有を図っている。3カ月に1度モニタリング(そしてどうなりましたかの評価)を行ない見直しをしている。入退院時や容態の変化でニーズが合わなくなった時は必要に応じて話し合い、計画の見直しを行ない申し送り時に職員に伝えている。日常の関わりの中で気づいたことを職員は気づきノートに書いて見直しの参考にしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院介助は原則家族にお願いしているが、困難な場合や緊急時は職員も対応している。個別支援として近隣の喫茶店、理容店、美容院なども支援している。職員として看護師を配置し医療連携体制加算を受けており、24時間連絡可能な体制があることが入居者、家族、職員の安心に繋がっている。認知症の専門医の往診があり相談したり指示を仰いでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	ハウスの協力医療機関の定期的な往診があり、何かあれば24時間電話で相談、指示が受けられる。ハウスの看護師が処置を行なっている。入居前からのかかりつけ医でも本人や家族の希望があれば受診することができる。また、かかりつけ医や歯科の往診も支援している。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	医療連携体制についての同意書の中に「重度化した場合における対応に関わる指針」、「看取りに関する指針」があり、入居時に家族に説明し同意を得ている。状態の変化に応じて早い段階から医師や家族と話し合い、職員にも伝えて方針を共有している。過去に2人の方を看取られ、ターミナルケアの勉強会も行なっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は日々の関わりにおいて言葉かけや対応に気をつけ、入居者の誇りやプライドを損ねないよう心がけている。入居時のアセスメントで触れられたくない言葉、避けるべき話題を把握し、言葉遣いに気をつけ支援している。排泄介助では特に声かけに注意を払い介助している。記録などは事務所で記入している。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	入居者の希望やライフスタイルに添って、体調も考慮して支援している。希望を表出できない人やじっと座っている人に対しても、家族に生活歴や得意なこと、苦手なことを聞き、園芸、食事の準備や片付けなど、本人のできることに関わってもらうことで活かしている。体操や散歩、室内でのレクリエーションなどは身体機能維持向上に役立っている。毎週のボランティアによる歌や手品、押し花教室、夏祭りなどのイベント、コミュニティーセンターでの津軽三味線の会など楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に「何が食べたい」と相談しながら、野菜中心の献立を職員がたてている。食事の準備や片付けなど職員は声かけしながら入居者と共に行なっている。大きなテーブルに手づくりのランチョンマットを敷き、音楽を聞きながら職員と一緒にゆったりと食事を楽しんでいる。家族からも「食事に関して気を遣ってとても安心している」と評価されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外、毎日本人の意思を確認して10時から18時まで入浴することができる。衛生面から湯は一人ひとり交換している。寛いだ気分で入浴できるように歌を唄ったり、「どこの温泉に行ったことがある？」と会話をするなど工夫している。また、柚子湯や菖蒲湯など季節感を大切に、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。一人で入浴される方には脱衣所のドアを少し開け、時々声かけして職員は見守っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の好きなこと、できることはできる限り行ってもらうよう、職員は声をかけたりお願いをしている。そして行ってもらったことに対して、必ず「ありがとう」など感謝の言葉を伝えている。毎朝手作りカレンダーのめくり、掃除、調理など個々の能力に合った役割をもっている。毎日夕食時の晩酌を楽しみにしている入居者がいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は入居者の希望に添って買い物や散歩に行き、筋力の低下予防に繋がるようになるべく外に出かける支援をしている。散歩の途中で喫茶店やコンビニなどに寄ることもある。外出行事では外食会、お花見、紅葉狩り、寺院巡りなどある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ハウスの前には車の量が多い幹線道路があることや、2階ユニットの入口近くに階段があるので、安全のため玄関、各ユニットのドアは施錠されている。また、入居者が玄関まで行って出れなくて、連れ戻される時の本人の気持ちを考え精神面からもユニットのドアは鍵をかけている。居室は自由に鍵をかけることができるので、自分で鍵をかける入居者が数人いる。		開所当時は施錠していなかったが、入居者が一人で出て行かれたことがあり、安全のため鍵をかけるようになった。鍵をかけない暮らしの大切さを再度話し合い、鍵をかけずに安全に過ごすことができるよう工夫されることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年に2回消防訓練（通報・初期消火・避難誘導）を行ない、1回は消防署職員が立ち合い指導を仰いでいる。訓練を実施するにあたり近隣には「お知らせ」を配布し、理解と協力をお願いしている。安全対策委員会を設け、災害時の備蓄品（飲料水・米・缶詰・調味料・ガスコンロなど）を準備している。設備点検は業者に依頼して行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量を毎日チェック表に記入し、適した量が摂取できるよう努めている。水分量は1日1リットル以上を目安にしている。体重は週に1回測定し健康管理を行なっている。飲み込みの問題のある入居者にはとろみ剤を使用している。10日間の献立表と料理の写真を撮って管理栄養士にアドバイスを受け、高齢者の食事についての勉強会をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大きなテーブルと肘付き椅子、テレビの横にはソファがあり、寛ぎの場になっている。また、一角に10畳の和室があり、大きな掘りごたつで団欒することができる。壁には手作りカレンダー、入居者の習字、行事のスナップ写真、季節の歌などが飾られている。屋上に芝生や季節の花、野菜（オクラ、大葉、枝豆など）のプランターがあり、手入れをしたり収穫することが楽しみになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の扉はすりガラスの部分がそれぞれ違うデザインになっており、入口には自筆の表札を掛け、入居者が迷わないよう配慮している。居室には飾り棚と大きな収納庫が設置され、整理整頓がしやすくなっている。使い慣れた家具やテレビ、ラジカセなど置き、壁には自分で作ったパッチワーク、押し花の作品や写真など飾り、それぞれ居心地よく暮らせる工夫をしている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。